

## いしやまじょうあと 15. 石山城跡

所在地：大飯郡おおい町石山地係

調査原因：範囲確認調査

調査期間：令和3年4月6日～令和3年3月31日

調査主体：おおい町教育委員会

調査面積：330 m<sup>2</sup>

時代：中世



位置図 (S=1/50,000)

**調査の概要** 石山城跡は、石山集落背後の標高190mの山上に展開する山城です。主郭からは佐分利川上・中流域一帯を一望でき、県道小浜綾部線と県道坂本高浜線が交差し、この地域を支配するうえで重要な場所に城が築かれています。本城を居城とし、佐分利一帯を治めていたのは若狭武田氏家臣である武藤氏でした。本調査は、石山城跡の保存活用と将来的な整備の可能性を探ることを目的とし、令和2年度で2年目の調査となります。令和2年度は遺跡の範囲確認と、主郭及び主郭に隣接する郭、最も南側に位置する郭の確認調査を行いました。

**遺構** 主郭は南北長約30m、東西幅最大14.7mを測り、南側から約15mのあたりで北東方向に少し屈曲しています。調査前から礎石が数ヶ所露出しており、表土面下からも礎石を検出しました。礎石の大きさは30～40cmを測ります。全面的な調査ではないため現時点で建物の規模など明らかではありませんが、主郭全域に礎石が置かれている可能性があります。

主郭の南側に隣接し、石山城跡の中で最も高所に位置する郭は、南北長約9.8m、東西幅最大8.6mを測ります。表土面下から礎石を検出し、南北に3間から4間、東西に3間から4間の建物が存在したと推測されます。礎石は50～70cmと主郭の礎石よりも大きく、主郭とは性格の異なる建物が建っていたのではないかと考えられます。

最も南側に位置する郭（南郭と呼称）は、南北長約13m、東西幅最大15mを測ります。郭北側を中心に表土面下から礎石を検出し、南北に2間から3間、東西に3間から4間の建物が存在したと推測されます。西端では大きな石を使用した石列を検出、郭の端を意識したものであると思われませんが、南・東端では石列が検出されなかったため、その用途は判然としません。この石列付近に直径約1m、深さ約50cmの穴があり、その周辺から甕片が出土していることから、甕を埋め、水甕として使用したと推測されます。南東隅からはコの字状の石組を検出し、その中央に炭化物がみられることから竈と推測され、石組の周囲には扁平な石が4ヶ所配置されており、竈の覆屋ではないかと考えられます。

**遺物** 主郭からはカワラケの小片と甕と思われる土器片が数点出土しています。南郭からは染付椀または皿の小片、甕片、カワラケの小片などが出土しており、概ね16世紀初頭に相当すると思われれます。主郭に隣接する南側の郭からは遺物の出土はありませんでした。

まとめ 南郭は、礎石や竈と考えられる遺構、出土遺物の内容から戦時に立て籠もるとい  
うよりも居住空間としての性格がうかがえます。

文献における破却されたとの記述や、礎石を抜き取り持ち帰ったという地元の話から、礎  
石など遺構の性格を示す痕跡は残っていないのではないかと想定していましたが、調査によ  
って比較的良好に残されていることが判明しました。今後の調査で規模や性格などがわかっ  
てくるものと思います。(川嶋清人)



石山城跡調査区（令和2年度調査区/E区）



主郭 礎石列



南郭 礎石建物跡